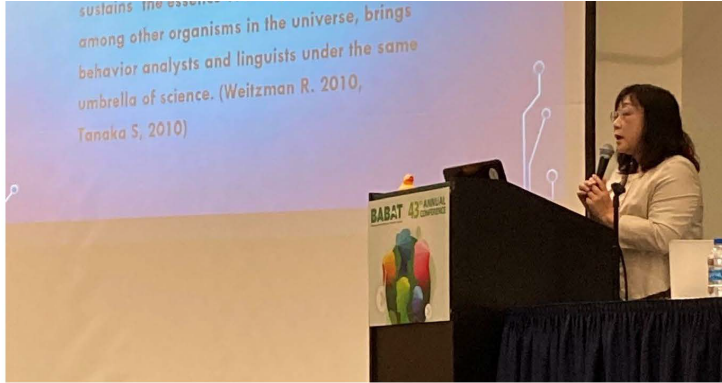




マサチューセッツ州ウースター市で開かれた Massachusetts Professionals in Behavior Analysis 行動分析学会 2022 年年次大会にてゲスト講演する田中桜子

「ABA の現場のプロを育てる」

ABA の国際資格とスタンダードについて: 日本語で受験できる ABA 指導者育成カリキュラム説明会 田中桜子 講師プロフィール

トロント大学卒（学士号）、プリティッシュコロンビア大学卒（修士号と博士号）、サイモンブレイザー大学でポストドク研究員をしているときに息子が自閉症と診断される。息子が中学生になるころマサチューセッツ大学院にて ABA を学び、認定行動分析士の資格を得る。2012 年までカナダ、プリティッシュコロンビア州公認行動コンサルタント（自閉症早期介入）を務め、帰国。2015 年、日本に初めて米国行動分析士認定協会（BACB）の国際基準の行動分析学のカリキュラムを導入し、2017 年までコーディネーターを務める。2021 年より米国機関 QABA の認定コースプロバイダとして我が国での本格的な自閉症介入治療と支援のプロフェッショナル育成に情熱をささげる。札幌市在住。

一般社団法人アジア・パシフィック ABA ネットワーク 代表理事

特定 NPO 法人アジア・パシフィック ABA コンソーシウム（シンガポール）代表

世界行動分析学の日連盟 WBADA 理事（米国）

（日）午前 10 時-12 時

オンライン配信

お申し込みは

contact@abasapporo.net

2023 年 1 月開始
QASP-S/QBA
指導者育成コース
受講生募集中

第 2 期目いよいよスタート！

コース常任講師



田中桜子 BCBA-D



呑谷恵 BCBA



長尾陽子 BCBA

（一社）アジア・パシフィック
ABA ネットワーク

〒062-0921

札幌市豊平区中の島 1 条 10 丁目

2-3

電話 011-799-4483

「ABAの現場の プロを育てる」 講師：田中桜子 PhD. BCBA-D

ABAの国際資格とスタンダードについて：日本語で受験できるABA指導者育成カリキュラム説明会

令和4年11月27日10AM Zoom開催

ゲストスピーカー：Hollie Benincosa,
QABA Executive Director

主催：（一社）アジアパシフィックABA
ネットワーク

自閉症スペクトラム障害などの発達支援に特化したABAの専門家育成カリキュラムの必要性：国内現状と国際標準の比較検討

田中桜子・呑谷恵・長尾陽子

(認知・行動療法学会第48回大会にて発表 R4年9月)

行動療法を含むABA（応用行動分析学）は、自閉症スペクトラム障害を含む発達障害に確かな効果が認められ、この30年ほど英語圏を中心に治療の公費化、保険の補償、ライセンス制度などの専門家の育成の取り組みが進んできた。ABAの資格としてはBCBA(Board Certified Behavior Analyst)が最も著名だが、その他発達障害に特化したQBA(Qualified Behavior Analyst)という資格もある。近年、わが国でも児童発達支援事業所や放課後等デイなどをはじめ、ABAを看板に掲げる企業・組織が増加している半面、専門家育成のための指導者育成プログラムは極めて少なく、医療、福祉や教育の現場においては、ABAの専門的な教育と訓練を受けたプロフェッショナルな人材が不足している。この発表では国内のABAの普及と教育の現状を検証し、国際的に展開する自閉症スペクトラム障害を含む発達障害に特化したABAの大学専攻科目としての標準化との比較、ならびに、行動療法家を含む専門家育成カリキュラムの我が国での必要性について検討する。また現在日本語で受講可能な唯一のABAのポストグラジュエートカリキュラムであるQABA(Qualified Applied Behavior Analysis Credentialing Board, 米国国家規格協会ANSI承認機関)認定の国際資格取得用各種カリキュラム（高卒、大卒、修士号保持者対象）について、カリキュラムの詳細とスーパーバイザーの下での実習の内容、倫理規範などを紹介する。

二つのABA国際資格の種類と認定機関について: BACBとQABA

BACB Behavior Analyst Certification Board ® **NCCA (by ICE) accredited**

<https://www.bacb.com/>

QABA Qualified Behavior Analysts Credentialing Board ® **ANSI accredited**

<https://qababoard.com/>

“A History of the Professional Credentialing of Applied Behavior Analysts” James M. Johnston, et.al. Behav Anal. 2017 Nov; 40(2): 523–538.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC6701231/>

国際資格の種類と認定機関について: BACB

Behavior Analyst Certification Board® (BACB) 米国行動分析士認定協会

BACB は、ABA 実務者、政府、および ABA サービスの消費者の資格認定ニーズに対応するために 1998 年に設立されました。BACB の初期には、その認証プログラムは一貫して成長し続けましたが、その成長は緩やかなものでした。最初の 13 年間で、BACB は 10,000 名を認証しました。後の 7 年間で、この数は 10 万人以上の認定者にまで増えました。さらに、2009 年以降、31 の州で行動分析士の免許を与える法律が制定されました。また、世界中に資格制度を広げることに努力してきました。

NCCA (by ICE) accredited (ICEはANSIによって承認された機関)

BCBA (BCBA-D) 修士号(博士号)レベルの行動分析士

BCaBA 学士号レベルの準行動分析士

RBT 登録行動テクニシャン

Behavior Analyst Certification Board® (BACB) 米国行動分析士認定協会

グローバル認証についての声明

BACBは現在、居住国に関係なく、個人の認証申請を受け付けています。2023年1月1日以降は、米国、カナダ、オーストラリア、英国(UK)*に居住する個人のみが、BACB認定を申請することができます。2023年1月1日以前に取得したBACB認定者は、再認定要件を満たし続ける限り、認定を無期限に維持することができます。2019年のBACB独自の発表に、この変更に関する追加情報が記載されています。他の国での将来の認証取得可能性に関する最新情報については、このウェブページを参照してください。

2023年1月1日より、BACBは、認定教育機関以外で授業が行われるAlternative Pathwayの下で承認されたVerified Course Sequencesのコースワークを認めないことになりました。BACBはもともと、北米以外の地域における行動分析学トレーニングの取り組みを支援するための取り組みとして、コースワーク検証のための代替経路を開発しました。BACBの国際的な焦点の変更に伴い、2023年からBCBAおよびBCaBAの認定申請は、認定教育機関で単位取得のために教えられたコースワークを含むBCBAおよびBCaBAハンドブックに記載のすべての要件を満たす必要があります。

国際資格の種類と認定機関について: QABA

Qualified Behavior Analysts Credentialing Board®

米国公認行動分析士資格認定委員会

The Qualified Applied Behavior Analysis Credentialing Board (QABA®)は、自閉症スペクトラムおよび関連障害を持つ個人に対して応用行動分析(ABA)サービスを提供する専門家の間で最高水準のケアを保証することを目的とした国際的に認定された資格認定機関です。

American National Standards Institute (ANSI) 米国規格協会 (ANSI / ˈænsi/ AN-see) は、米国内の製品、サービス、プロセス、システム、人材に関する任意の合意規格の開発を監督する民間の非営利組織である[3]。また、米国の製品が世界中で使用できるように、米国の規格と国際規格の調整も行っています。

ANSIは、他の規格団体、政府機関、消費者団体、企業などの代表者によって開発された規格を認定しています。これらの規格により、製品の特性や性能が一貫していること、人々が同じ定義や用語を使用していること、製品が同じ方法でテストされていることが保証されます。また、ANSIは、国際規格で定義された要件に従って製品や人員の認証を行う組織を認定しています[4]。



QABA:自閉症と発達障害に特化した ABAの専門資格認定委員会

QABA CREDENTIALING BOARD®
QABA®認定協会

Qualified Applied Behavior Analysis Credentialing Board (QABA®) は、行動分析家、ABAプロバイダー、保険会社、政府機関、行動分析士および行動保健サービスの消費者が特定した認定のニーズを満たすために2012年に設立されました。本部は米国カリフォルニア州アーバイン市にあります。

QABA®はニーズに応えた

- これらの業界標準を策定し、トレーニングと資格認定のシステムを確立するプロセスは、QABA® (Qualified Applied Behavior Analysis Credentialing Board®) が自閉症の文献調査を用いて実施しました。
- 国際ABA資格認定機関BACB®が英語圏のみの資格に制限されることが決定した今、唯一、QABA®のみが同等の資格認定を非英語圏にも提供している。



3段階のQABA® 認定プログラム

Qualified Behavior Analyst (QBA®)について Qualified Behavior Analyst (QABA認定行動分析士) の略。この資格者は、候補者の自閉症スペクトラム障害および関連する障害を持つ個人に治療的介入を行う専門家のコンピテンシーにおける知識、スキル、能力を持ち、専門家としての完全な能力／資格を示しているかどうかを判断します（公衆の安全と福祉を守るため）。

Qualified Autism Services Practitioner–Supervisor (QASP-S®) QABA認定自閉症サービスプラクティショナー・スーパーバイザー：中堅レベルの資格。QASP-S認定者は、スペクトラム障害としての自閉症を理解し、自閉症に効果的に取り組むための原則を示します。QASP-Sは、ABAおよびASDの範囲内でライセンスを持つ専門家、またはBCBAやQBAの監督下でスーパーバイズを行うことができます。申請者は、8時間のスーパーバイズコースワークの証拠を提出しなければなりません。

Applied Behavior Analysis Technician (ABAT®) ABA技術士

エントリーレベルの資格。この試験は、承認されたコースワークを修了し、必要な15時間の監督付きフィールドワークを満たした人を対象としています。

QASP-S®とABAT®は、QBA、ABAとASDを診療範囲に持つ免許を持った専門家、またはBCBAの監督の下で活動します。

事前承認済みコースワーク

QABAは、カレッジ、大学、サービスプロバイダー、オンライントレーニング機関を通じて提供される既存のコースワークの資格を事前に判定するプロセスを確立しました。

(U of South Florida, U of West Florida, UC Santa Barbara, Clarion U, African and South Korean universities etc.)

このプロセスはQABAのウェブサイトに掲載されています。QABAの資格認定のための現在のPre-Approved Coursework（事前承認済みコースワークプロバイダ）とCEUプロバイダをウェブサイトで確認することができます。

- 3つのレベルの資格取得のための
コースワーク
- BACBのカリキュラムとの比較
- 教育課題と時間数
- 実習時間とトラッキングシート
- 2021年からABAT資格取得受験が
日本語で可能
- スーパーバイザーレベルの2つの
コースワークQASP-S, QBAも2022
年から日本語で提供されている
- (社団法人アジアパシフィックABA
ネットワークはQABAの事前承認済
みコースワークプロバイダー)

	ABAT (example)	QASP-S	Additional class for QABA	QBA
ASD basics	5	15	5	20
Legal, Ethics, Professional Consideration	5	10	10	20
Core Principles of ABA	5	35		35
Antecedent Interventions	5	20	10	30
Skill Acquisition	5	40		40
Behavior Reduction Interventions	5	20	10	30
Data Collection Analysis	5	20	10	30
Assessment	5	20	25	45
Training and Supervision	15+	8	12	20
Total Hours of Instruction	40+ (& 15+ SV; 当法人 100+)	188	82	270 (当法人 295+)

	BcaBA requirement (Basic class)	Advance class	BCBA Requirement
Ethical and Professional conduct	15	30	45
Concepts and principles of BA	45		45
Fundamental Elements of Behavior Change and Specific Behavior change procedure	45		45
Intervention and Behavior change consideration	5	5	10
Behavior change system	5	5	10
Measurement data analysis	10	15	25
Experimental design	5	15	20
Identification of problem and assessment	30		30
Implementation, management Supervision	5	5	10
DISCRETIONARY	15	15	30
	180 (225)	90	270(315)

スーパービジョン・トラッキングシート

[illegible]

授業ではBACBとQABAの両方の課題を履修

第6週 ユニット1.6

「強化の基本スケジュールと行動対比」

クーパー13章「強化スケジュール」
第14章「刺激提示による弱化」

学習目標:

QASP-Sのタスクリスト: C-9 強化の基本スケジュール（固定間隔、固定比率、変動間隔、変動比率），F-5 行動対比。

QBAのタスクリスト: C-10 強化スケジュール, E-5 行動対比。

BCBA 第5版タスクリスト: セクション1基礎B概念と原理B-5,B-6,



アメリカでのABA実践現状

- ABAが自閉症スペクトラム障害への療育方法として1980年代頃から用いられ始めた
- 1998年にBACB (Behavior Analyst Certification Board) が設立
- BCBAの人数：世界⇒55,628 アメリカ⇒47,622 日本⇒18
- 通常のABA事業所は複数のBCBAが更に複数のセラピスト(RBTなど)をスーパーバイズしている

アメリカでのABA実践現状

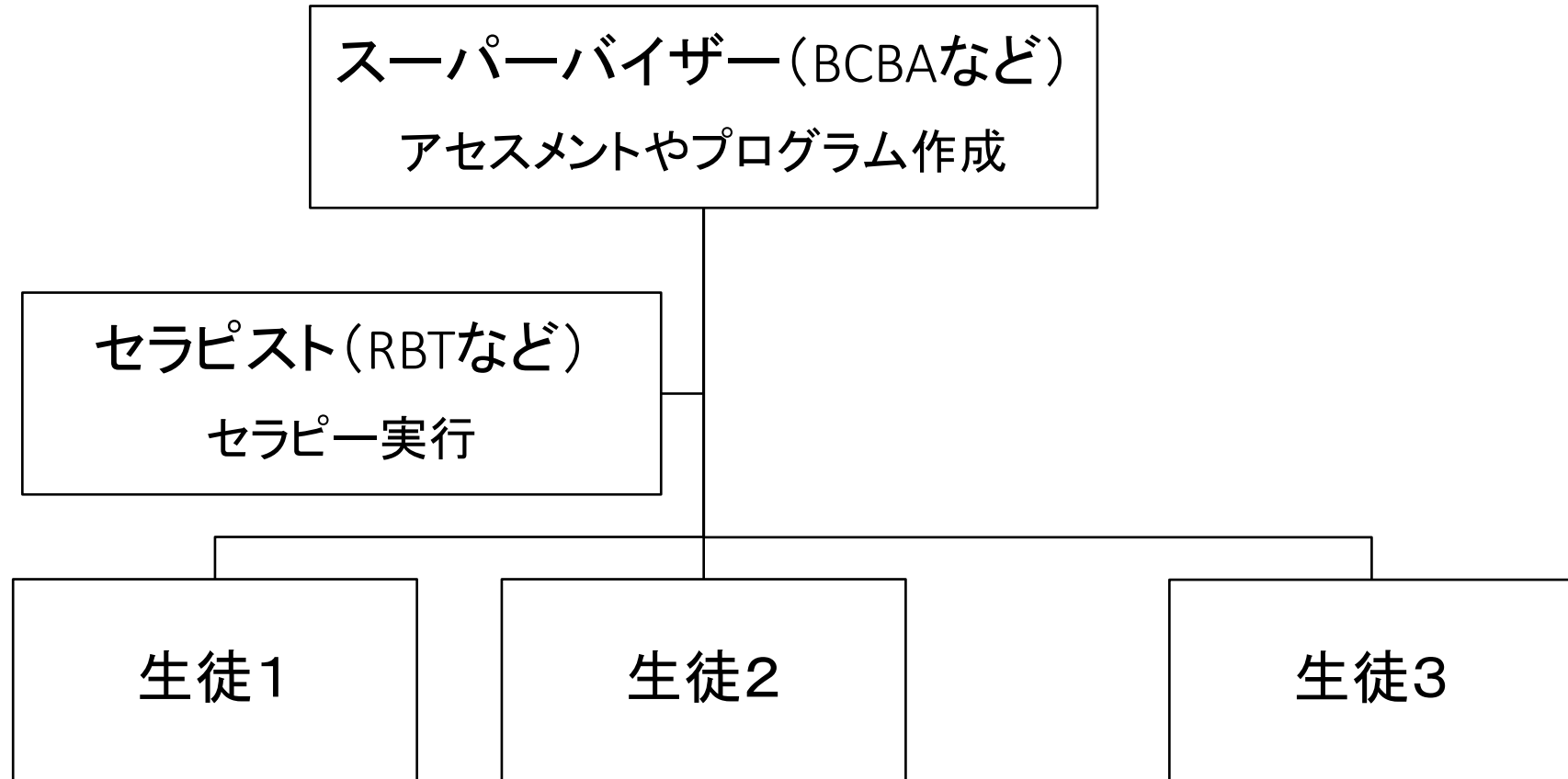
典型的なアメリカのABAサ
ービス事業所

ディレクター(管理者)
BCBA-Dの場合が多い
BCBAのスーパーバイザー

複数のBCBAが勤務
それぞれ複数のセラピスト(RBTなど)を担当
セラピストのスーパーバイザー

多数のセラピスト(RBTなど)が勤務
それぞれ複数のクライアントを担当

アメリカでのABA実践現状



アメリカ(北米)と日本の比較

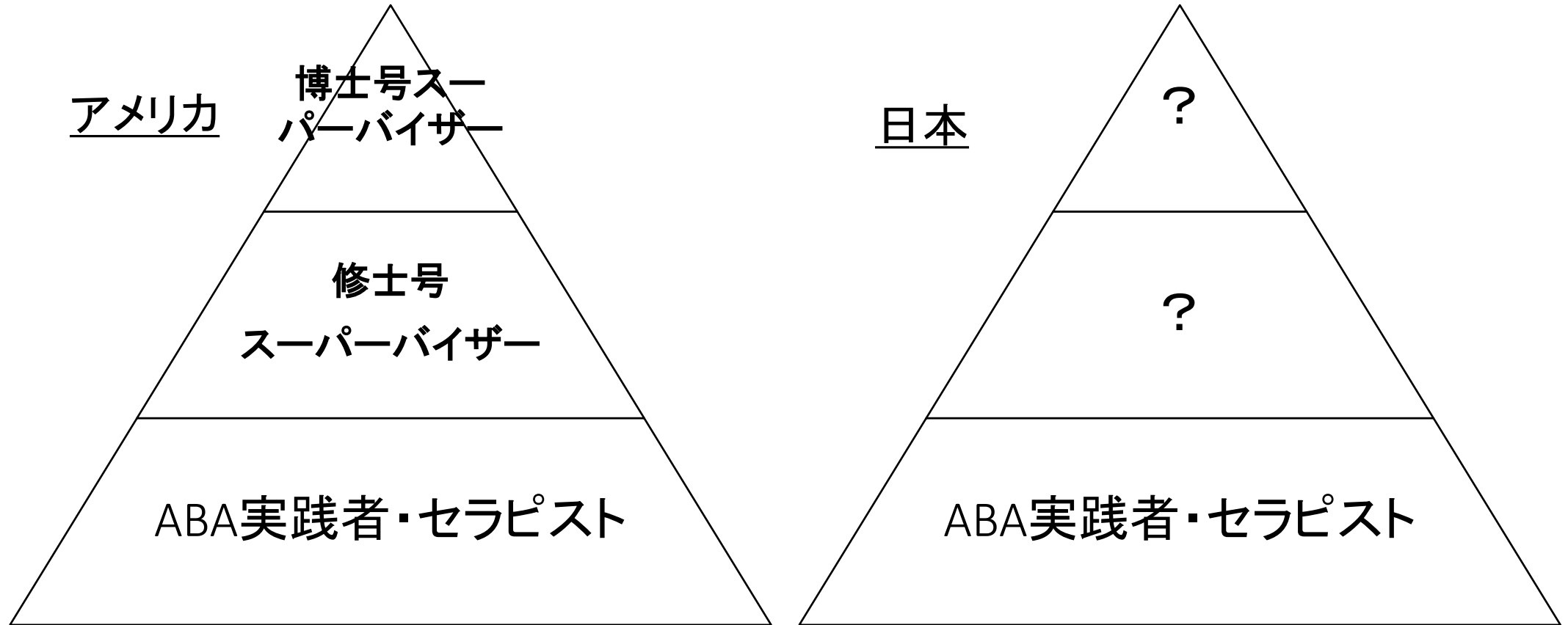
アメリカでのABA実践現状

- 州法などによって公費化されている場合
- 医療保険適応
- 学区区域などとの契約

日本でのABA実践の現状

- ABAは一般的に知られていない
- 医療従事者からも勧められていない
- 経験者や有資格者が非常に少ない
- 公費化されていない、健康保険適用もされていない
- 児童発達支援事業所や放課後等デイサービスでABAを応用するのが唯一の公費化の手段

日本でのABA実践の現状



国内限定での関連資格の習得と維持基準は？

一般社団法人日本認知・行動療法学会認定 行動療法士(認定行動療法士・専門行動療法士)

行動療法スーパーバイザー認定規定

自閉症スペクトラム学会認定 自閉症スペクトラム支援士 (Standard, Advance, Expert)

NPO法人ADDS認定資格 初級ABAセラピスト

ABAセラピスト研究会認定 認定ABAセラピスト

NPO法人つみきの会認定 ABA療育支援員

川崎医療福祉大学 発達障害 (TEACCH®コース)

日本TEACCH®公認専門職ネットワーク協会 TEACCH®公認専門職制度 TEACCH®Professional Certification Program

公認心理士

臨床心理士

その他

講習内容
ABAT コンピテンシー基準

ドメイン
A. 自閉症と発達障害に関する基礎知識
1. ASDと共通の特徴と障害
2. スペクトラム障害としての自閉症と3つの主要な機能障害
3. 早期診断のための「危険信号」の活用
4. 自閉症スペクトラム障害のリスクファクター
5. 診断に関連する用語（語用論的言語、受容的言語および表現的言語、感覚運動、社会的スキル、共同注意、常同行動）
6. 学習障害、処理障害など、識別診断でよく関連する障害を特定することができる。
7. ASDに関連する併存する障害の特定
B. 法的・倫理的・専門的な考慮事項
1. ABATの実践範囲と役割
2. QABAの倫理規定、方針、手順
3. 機密保持の制限
4. HIPAA
5. アドボカシーと協調的アプローチによる介入
6. 次の略語を同定する：IEP、IDEA
C. ABAの基本原理
1. 行動主義と行動修正における基本的な前提
2. 古典的条件付けとオペラント条件付け、条件性と無条件性の強化と弱化
3. 三つの部分からなる随伴性、先行事象、行動、結果
4. 行動分析学の基礎的な用語として、消去、消去バースト、自発的回復、遮断、飽和化、刺激、弁別刺激、刺激性制御、反応、動機付け操作、確立操作、セッティング事象などがあります。
5. 強化と弱化スケジュールの法則と種類
6. 随伴性と非随伴性：一次性強化と二次性強化と弱化
7. 応用言語行動（AVB）の用語と定義
D. 先行介入
1. ポジティブ行動支援システムの定義と 同定
2. プレマックの原理、行動モメンタム、プライミング、強制選択法
3. 機能的コミュニケーショントレーニング（FCT）、PECS、TEACCH、ソーシャルストーリー、ビデオモデリング、視覚スケジュールなど、一般的な環境や視覚的サポートを同定し、それぞれの利点を説明します。

E. スキル習得プログラム
1. 効果的なゴールと目標の要素
2. 課題分析
3. プロンプトのタイプ
4. プロンプト依存とフェーディング
5. 要求と要求フェーディング
6. ペアリング
7. モデリング
8. 模倣
9. 言語オペラント
10. ミーム（真似）行動
11. 動作行動
12. エラーレスラーニング（無誤学習）
13. エラー修正手続き
14. 刺激性制御と転移
15. 転移試行
16. 不連続試行訓練（DTT）
17. 弁別訓練
18. シェーピング
19. 逆向と順向連鎖
20. 自然環境教育（NET）
21. 一般化と維持
22. 基軸行動
23. 基軸行動訓練（PRT）
F. 行動を減少させる介入
1. 行動介入計画（BIP）
2. 行動の4つの機能を挙げ、FBAを定義する
3. トークンエコノミー、積極的練習、過剰修正、レスポンスコスト、タイムアウトなどの随伴性介入
4. 分化強化手続き DRO, DRA, DRI, DRL, DRH
G. データ収集と分析
1. 信頼性と妥当性

2. 操作的定義
3. 評価の種類：刺激選好、セルフモニタリング、ABC、環境評価
4. 頻度/イベント記録、継続時間、タイムサンプリング、インターバル、部分インターバル、潜時などの測定の種類
5. 連続と不連続、直接と間接のデータ記録
6. 基本的なグラフ：折れ線、散布図、棒グラフ
7. IOAの定義と利点の同定

QASP-S（準スーパーバイザー）コンピテンシー基準

ドメイン
A. 自閉症スペクトラム障害の基礎知識
1. 自閉症スペクトラム障害に関連するDSM-IVおよびDSM-V（または現行のDSM）
2. 自閉症スペクトラム障害に関連するCDCの警告する危険因子と併存疾患
3. 発達のマイルストーン（典型的なもの、非典型的なもの、年齢に応じたものなど）
4. 自閉症の診断プロセス
B. 法的・倫理的・専門的な考慮事項
1. QABAの倫理規定
2. HIPAA規制（制限を含む守秘義務、報告義務、報告文書、警告義務と保護 義務の比較など）、日本の規制や慣例との比較
3. 教育法（IDEA、LRE、IEP、ADA、Rehabilitation Act、504 Planなど）日本との比較
4. ポジティブ行動支援
5. パーソンセンタードプランニング（個人を尊重した支援計画）
6. 連携の方法（治療遵守、紹介の方法など）
C. 応用行動分析学の基本原理（概念と原理）
1. 四項随伴性
2. レスポナデント行動とオペラント行動の比較
3. 刺激（例：刺激性制御、弁別刺激、刺激デルタ、SD-p、般化、弁別、反応）
4. 飽和と遮断を含む動機付け操作
5. 死人テスト
6. 強化と弱化（例、正と負）
7. マッチングの法則（例、率、マグニチュード）
8. 条件性・非条件性強化子と弱子
9. 強化の基本スケジュール（固定間隔、固定比率、変動間隔、変動比率）
10. 消去のリスクと副作用（消去バースト、自発的回復、 反応復活、そして更新）
11. 基本的言語オペラント（マンド、タクト、エコイックとイントラバーバル）
12. 科学的理解（記述、予測、制御）
13. 科学の6つの態度
14. 応用行動分析学の7つの次元
D. 先行戦略
1. 先行戦略（例：プライミング、選択肢、行動モメンタム、視覚支援、プレマック法則、環境修正）
2. NCR 非随伴性強化手順
3. FCT 機能的コミュニケーショントレーニング
4. 設定事象の影響、環境改変

E. スキル習得のプログラミング
1. 目標の作成基準（例：客観的に測定可能な習得基準、ターゲット）
2. プログラム成功のための社会的・文化的要因
3. エラー修正法
4. プロンプト（例：階層性、方法、フェーディング、タイプ、プロンプト依存）
5. ABAの指導・教育方法論
F. 不適切行動を減らす介入
1. 行動介入計画の構成要素
2. トークンエコノミーの構成要素（例：バックアップ強化子、般性強化子、反応コスト）
3. タイムアウト手続き
4. 分化強化手続き
5. 行動対比
6. 機能評価と行動の機能
7. 集団随伴性
8. 随伴性契約の構成要素
9. 不適切行動を減らすための介入（例：消去、タイムアウト、集団随伴性、弱子手続き）に関する倫理的配慮
G. データ収集と分析
1. 測定の種類（例：頻度／率、持続時間、力／マグニチュード、反応潜時、[RT]反応間時間）
2. ABA のグラフの種類
3. データ収集方法
4. 連続および非連続の測定システム（例：部分インターバル記録、全インターバル記録、瞬間タイムサンプリング）
5. 観察者間一致 IOAの種類（例：全カウントIOA、試行別IOA）
6. ビジュアル分析（トレンド、レベル、変動性など）
7. 信頼できる測定の特徴（信頼性、正確性、妥当性など）、測定の検証
H. アセスメント
1. 刺激選好査定と強化子査定の種類（例：限界と利点、実施方法）
2. 機能に基づく行動低減のためのアセスメントツール（例：直接（記述的）および間接的なアセスメントを含む行動アセスメントの構成要素とその利点・限界、行動機能評価FBAの定義と構成要素）
3. 行動アセスメント・スケール（面接とスケール）
4. 条件付確率
5. 環境分析、エコロジー・アセスメント
6. 操作的定義の基準
I. トレーニングとスーパービジョン
1. 治療と手順の完全性のモニタリング、指導
2. 観察者間ドリフトと反応性/リアクティビティ
3. 観察者間一致の検証方法
4. 訓練手順と行動技能訓練BST
5. パフォーマンス評価（例：フィードバック、記録、継続的支援）
6. 社会文化的価値（考慮事項）
7. 社会文化的価値（考慮事項）

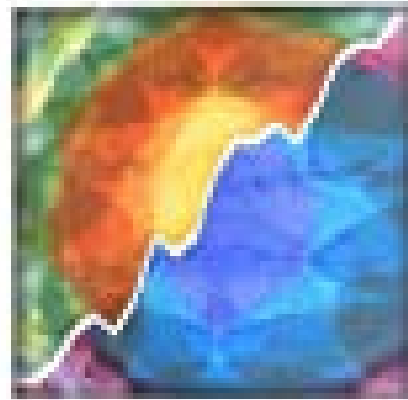
応用行動分析学～応用行動分析家の倫理の考察～

クーパー、ヘロン、ヒューワード著

応用行動分析学

Applied Behavior Analysis
(2nd Edition)

John M. Cooper, Timothy L. Heron, William L. Heward



応用行動分析学 / 著者: クーパー、ヘロン、ヒューワード / 訳者: 中野信幸 / 発行所: 丸善出版

中野信幸 訳

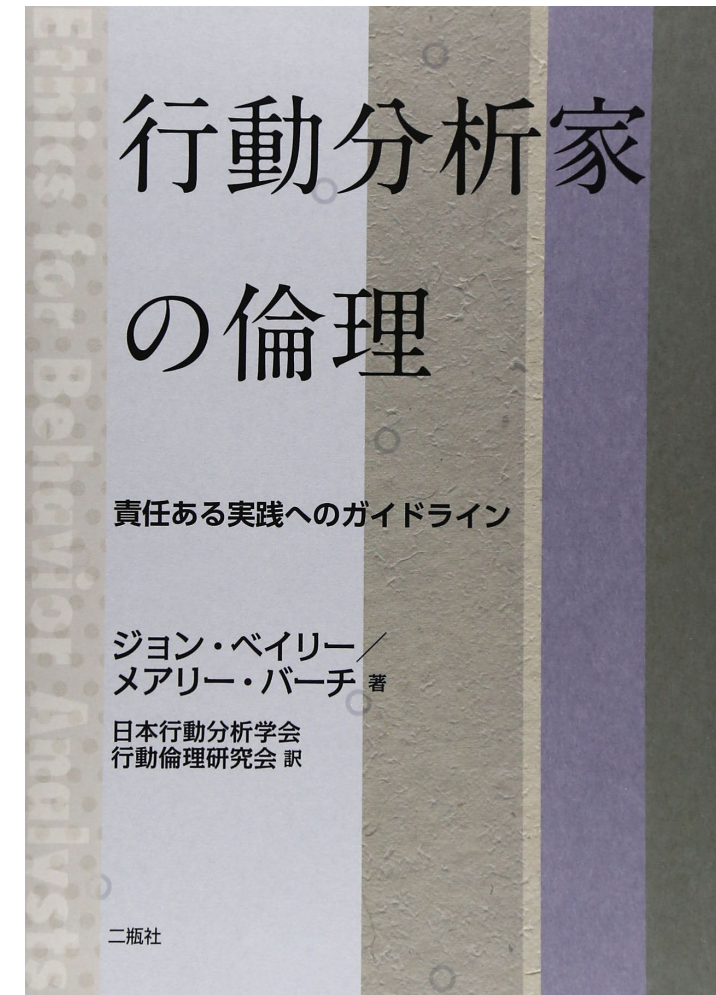
行動分析学の独自性

- エビデンスに基づいた治療 (Evidence-Based Treatment) は、最近、心理学や医学のキャッチフレーズになっているが、行動分析学では、40年以上標準的な手続きだった
- 現場で治療を行うということ、そして、取り扱う行動の問題が深刻であることが、行動分析学は独自となり、他の臨床心理と異なる特殊な倫理的問題に取り組むことになる。
- 行動分析家は、行動が極めて深刻で、事実上驚くほど複雑である事例に取り組まなければならない場合がしばしばある。

行動分析家の倫理

～責任ある実践へのガイドライン～

ジョン・ベイリー &
メアリー・バーチ 著



QABA倫理行動規範の序論

- QABA倫理行動規範は、すべての資格取得済みで認定されたプロバイダー、申請者、および承認されたCE プロバイダーに適用されます。最高水準のケアを確立し、自閉症スペクトラム障害および関連の障害を持つ人々に行動介入サービスを提供するすべての専門家に力を与えるというQABAの使命に沿って、当組織の倫理的行動規範は、資格取得済みで認定された専門家とその雇用者に専門的行動分析の分野における行動基準のガイダンスを提供することを目的としています。その目的は、倫理的な行動を促進し、専門家としての判断力を高めるための枠組みを提供することにあります。
- 倫理行動規範は、クライアントの福祉と権利、ケアと治療の基準、職業上の行動、スーパービジョン、紛争解決衝突の解決、適切なトレーニング／研究、その他の該当する職業上の責任を守るために、専門家が合理的な手段を講じることを保証するために必要です。倫理的行動規範が倫理的ジレンマを直接解決しない場合、認証者は、同様の能力および／または活動に従事する他の専門家がどのような決定を下すのが一般的であるかを相談し、判断するものとします。
- 倫理的行動規範は、すべてのレベルの資格取得者および申請者の倫理を扱っています。行動規範の中には、特定の証明書に関連するものもありますが、倫理基準は、専門分野の包括的かつ普遍的なガイドラインであり、すべてのレベルの専門家の育成に責任を持つものです。

QABA倫理規定

1.0 序論

2.0 能力

3.0 プライバシー／機密保持

4.0 サービスの提供

5.0 クライアントへの責任とクライアントの権利

6.0 人間関係

7.0 スーパービジョン及びトレーニング

8.0 記録の保存と料金

9.0 公式声明

10.0 研究

日本で現在提供されている事前承認済み QABAコースワーク: ABAT, QASP-S, QBA

ABAT: ① (一社)アジア・パシフィックABAネットワーク(12週間集中
講義plus実践コース、QASP-S予備コース)

② ABA スクールTogether(40時間講習plus15時間実習)

QASP-S: (一社)アジア・パシフィックABAネットワーク

QBA: (一社)アジア・パシフィックABAネットワーク

*上記コースワークならびに最終資格試験は日本語で受けられます。

お問い合わせは: contact@abasapporo.net

参考文献

BACB Behavior Analyst Certification Board[®] NCCA (by ICE) accredited

<https://www.bacb.com/>

Johnston, James M. et.al. 2017. “A History of the Professional Credentialing of Applied Behavior Analysts” Behav. Anal. 2017 Nov; 40(2): 523–538.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC6701231/>

IBAO International Behavior Analyst Organization[®]

https://theibao.com/international_behavior_analyst

QABA Qualified Behavior Analysts Credentialing Board[®] ANSI accredited

<https://qababoard.com/>